

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

大牟田市立駛馬小学校

教諭 山下 隼人

1 単元名 「有明海と諏訪川の生き物を調べよう」

2 単元の目標

- 有明海や諏訪川に生息する生き物について知り、それらの生き物を図鑑やインターネットを使って調べる活動を通して、それぞれの様子の違いや好む環境があることに気づき、生き物とその周りの自然環境とが密接に関わり合っていることを理解することができる。 (知識及び技能)
- 見つけた生き物についての特徴やその周りの自然環境との関係性について、生き物カードに絵や言葉でまとめ、わかったことや考えたことを地域の人や他の児童にわかりやすく伝えたりすることができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- 自分たちの身近な自然に関心を持ち、有明海や諏訪川には多種多様な生き物が生息しているという魅力を多くの人に伝えるために、意欲的に生き物について調べたり、まとめたりして、地域の人や他の児童と交流することができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、「諏訪川での体験活動」、「有明海や諏訪川の生き物調べ」、「諏訪川に生息する生き物カードづくり」を教材として取り上げる。

カヌー体験をして諏訪川の楽しさを味わったり、ゲストティーチャーからたくさんの生き物がいることを学んだりすることで、地域の自然環境への興味や関心を高め、もっと自分たちで調べてみたいという主体性を促すことが期待できる。また、実際に有明海や諏訪川に行き、そこに生息する生き物を見つけることで、地域により愛着をもって関わろうとする態度を育むことができる。

そして、諏訪川で見つけた生き物たちの特徴をカードにまとめていく中で、生き物と自然環境とのつながりを考えていくことは、物事を見る力や、自分たちのことだけではなく生き物や環境のことも考えながら行動する力を高めることにつながる。また、地域の魅力を伝える担い手の一人として、地域の人や他の児童に情報を発信していく活動を通して、自分たちもまた地域の一員であることへの自覚と責任感を育むことができるというよさがある。

(2) 児童観

本学級の児童は、これまでに社会科の学習で、校区の地図作りを通して、校区の土地の様子や特色を学習してきている。また、理科の学習では、校内での生き物調べ春や夏の生き物を観察カードにまとめることを通して、季節や環境によって、生息している生き物の違いがあることや、それぞれの生き物の特徴などについて理解してきている。しかし、自分たちの校区にある自然についてはまだ目を向けておらず、そこがどのような環境で、どのような生き物が生息しているのかなど、校区の自然の魅力を味わったり、学んだりするところまでには至っていない。

そこで、校区への愛着が高まり、校区の土地の特色や生き物の特徴を理解できるこの期に本単元を取り上げる。そして、諏訪川などの地域の自然の豊かさや素晴らしさを味わうことのできる体験活動を行い、そこに生息する生き物について知るとともに、地域の人や他の児童と交流することを通して、駿馬校区の魅力に気付き、「諏訪川」などの自然を大切にしようとする態度を育てたい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、これまでの社会科での駿馬校区マップづくりや理科での生き物調べなどの既習を振り返らせる。このことを通して、駿馬校区の自然についてはまだ知らないことが多いことに気付かせる。特にカップ祭りやカヌー体験が行われ、地域の人々に昔から大切にされている「諏訪川」に焦点をあて、なぜ大切にされているのかを自分たちでも調べてみたいという意欲をもたせたい。

次に、諏訪川で開催されているイベントの1つであるカヌー体験に参加したり、ゲストティーチャーに諏訪川は有明海とつながっていることや特有の生態系があることについて紹介してもらったりする活動を通して、諏訪川の魅力味わわせる。そして、実際に諏訪川の生き物を見つけてみたいという思いを高めさせ、有明海の干潟や諏訪川の中流に行き、ゲストティーチャーに説明してもらいながら、多種多様な生き物が生息していることを知ることができるようにする。また、見つけた生き物の特徴について、図鑑やインターネットを活用して詳しく調べさせたり、環境との結び付きを考えさせたりして、絵や言葉を使ってわかったことや考えたことを生き物カードにまとめさせ、たくさんの素晴らしいよさがある諏訪川に愛着をもつことができるようにする。

そして、諏訪川にはたくさんの生き物がいることを、自分たちだけではなく、もっと多くの人に知ってもらいたいという思いをもたせ、地域の人や他の児童へと発信させる。

さらには、これらの活動を通して、有明海や諏訪川の魅力を知ることができたことやその魅力を伝えることができたことを振り返らせることで、それらが環境を守ることにつながっていることに気付かせる。また、数が少なくなっている生き物がいるという事実から、このままではいけないという危機意識を持たせたり、もっと自分たちにできることはないか話し合わせたりすることを通して、第4年生の総合的な学習の時間で、地域のよさだけでなく、課題を見つけ、解決するためにどう行動すべきか考える学習へとつなげていくようにする。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

多様性…身近な自然の中には、数多くの種類の生き物がいる。また、それらの生き物によって見た目や動きなどの様子や好む環境が異なる。

相互性…川や海はつながっており、生き物同士も互いに関わり合いながら生きている。人間もまたその自然の循環の中で様々な恩恵を享受している。

連携性…生物の多様性を守っていくためには、私たちだけではなく、地域社会全体で協力して活動していく必要がある。

責任性…私たち人間が自然や生き物のことについて知る必要がある。また、それらを考えながら行動し、関わり続けていくことが大切である。

・ 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力

これからも諏訪川や有明海の生き物たちを守っていくために、どのようなことが必要か、そのために自分たちに何ができるのかを考える。

多面的・総合的に考える力

人間からの視点、生き物からの視点、それぞれの視点を通して多様な生き物がよりよく生きることのできる環境について考える。

コミュニケーションを行う力

生き物の多様性を守るための方法を考え、伝え合うとともに、他者と力を合わせて行動する。

進んで参加する態度

これからも興味や関心をもって、自然や生き物について学び続けようとする。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

自然環境、生態系の保全を重視する（生物多様性の重視）

自然の中には、森、川、海、草原など様々な環境があり、それぞれの環境に適応しながら多くの生き物が共生している。生態系を守るためには、人が適切に自然と関わらなければならない。

幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

自分たちの地域には豊かな自然があり、その中で多種多様な生き物が生息していることは当たり前ではない。

・ 達成が期待される SDGs

1 1 住み続けられるまちづくりを

1 4 海の豊かさを守ろう

4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 諏訪川や有明海には数多くの生き物が生息しており、それぞれの生き物に特徴や、好む環境があることを理解している。</p> <p>② 図鑑やインターネット、インタビューなどを活用して、知りたい生き物について調べたり、メモしたりして、必要な情報を集めることができる。</p>	<p>① 調べたことをもとに、生き物と自然環境とのつながりを考えることができる。</p> <p>② 諏訪川や有明海の生き物について学んだり、調べたりしたことを、言葉や絵などを用いて生き物カードにわかりやすくまとめることができる。</p>	<p>① 諏訪川や有明海の生き物について知りたいという思いを持ち、意欲的に関わったり調べたりしようとしている。</p> <p>② 諏訪川の生き物について学んだことを地域の人や他の児童に向けて理解してもらえるように発信しようとしている。</p> <p>③ 生き物のために、自分たちにできることを模索しようとしている。</p>

5 単元の指導計画（全25時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校区マップづくりなどの既習を振り返り、諏訪川のことについてもっと知りたいという意欲をもち、今後の見通しをつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・諏訪川のよさを見つけてみたいな。 ○ カヌー体験に参加したり、有明海や諏訪川には数多くの生き物が生息していることを知ったりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・カヌー楽しかったな。諏訪川でこんな楽しいことができるんだ。 ・たくさんの生き物があるんだね。自分の目で見てみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事が諏訪川と関係していることから、諏訪川が地域の人々に大切にされているのはなぜなのかという課題意識をもたせる。 ・見たことのない生き物が沢山いることへのずれを明らかにし、自分たちで有明海や諏訪川の生き物を見つけたり、詳しく調べたりしたいという思いを高めさせる。 	<p>△(ウ)① (主体的)</p> <p>△(ウ)① (主体的)</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 有明海の干潟や諏訪川の中流の生き物を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・生き物がたくさんいるね。 ・有明海の干潟は他の海の浜辺と違うね。 ・諏訪川の中流の水はきれいだね。 ○ 活動の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・見つけた生き物についてもっと詳しく調べてみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有明海や諏訪川がどのような環境で、どのような生き物がいるのかを知るために、現地に行って生き物を見つける活動を提案する。 ・ゲストティーチャーに見つけた生き物について説明してもらうことで、興味や関心を高めさせる。 	<p>△(ウ)① (主体的)</p> <p>△(ア)① (知・技)</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 諏訪川の生き物博士になるために、図鑑やインターネット、インタビューなどを活用し、見つけた生き物について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・生き物それぞれに特徴があるんだね。 ○ 調べたことを観点ごとに「生き物カード」に詳しくまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・見つけた生き物はきれいな水が好きな生き物が多いみたいだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関連する書籍やインターネットのサイトを準備しておき、必要な情報を見つけることができるようにする。 ・色・形・大きさなどをまとめるだけではなく、生き物の周りの環境との関係についても考えさせる。 	<p>△(ア)① (知・技)</p> <p>△(ア)② (知・技)</p> <p>△(イ)① (思・判・表)</p> <p>△(イ)② (思・判・表)</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「生き物カード」にまとめたことを、地域の公民館に掲示したり、発信したりする。 ○ 活動の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・諏訪川の魅力をこれからも伝えていくために、諏訪川の環境や生き物を守っていかないね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人と交流する機会を設定し、相手意識をもたせる。 ・今後の活動へとつなげていくために、見つけた生き物の中には、数が少なくなっているという事実を確かめさせる。 	<p>△(ウ)② (主体的)</p> <p>△(ウ)③ (主体的)</p>